

音楽アーティスト科 ベースコース 受講科目一覧 2年次

ベース総合専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
演習	共同演習Ⅱ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技Ⅱ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅱ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅱ	68	2	4
実習	作品制作基礎Ⅱ	68	2	2
実習	作品制作応用Ⅱ	68	2	2
合計		888	26	38

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴					
授業概要	著作物の定義や著作権の権利及び著作隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。				
到達目標	音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権の権利の内容を理解する 著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作隣接権の内容について理解する ① 著作隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～17回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 18～20回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ【作文作成&提出】
【後期】 21～24回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リカーブラインについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 25～27回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 28～30回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 31～34回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。 JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。 仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	分野別ゼミⅡ		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要	主にパフォーマンスアートの歴史(音楽史、演劇史、芸能史、身体表現の歴史)を通してこれらの体系を理解することでアーティストとしての自らの在り方を探ると同時に、哲学などを学びながらそれらのエッセンスを加味することによりそれぞれの美学に立脚した活動を促す。				
到達目標	オリジナルパフォーマンス、オリジナルアンサンブル、セッションワークなどの様々なパフォーマンスアートの理論を通してそれらコンテンツの基本構造を理解し、実際の表現学習の類型を体系的に捉えることにより知識量を飛躍的に向上させます。またプロフェッショナルへの入り口として技や演出力のレベルを上げ、実際のショービジネスの世界で通用しうかのシビアな目線によって、より高度な表現方法への造詣を深め、且つ表現者としてそれらを体得していく。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	エンタテインメント作品とは歴史や人間性など人生哲学がダイレクトに投影されるという視点から様々な先人の類型を紐解きながらアーティストとしての生き様を討議などを交えて考え出していく。
【前期】 4～7回目	音楽の起源から中世・ルネッサンス、バロック、典派、ロマン、近代・現代の音楽と作曲家、また現代ポピュラーミュージックへ多大な影響を与えたアメリカルーツミュージックの体系・系譜を学びそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 8～10回目	日本の音楽史の中でポイントとなる雅楽、声明、琵琶楽、能、文楽、歌舞伎、地歌、箏曲、尺八などの演奏、発声、ステージシステムなどを体系的に理解しそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 11～13回目	身体表現の歴史では舞踏やダンスは様々なスタイルの累積により進化し、過去から現代へと融合し、新たなムーブメントが生み出される。そのルーツやスタイルの系譜を見ながらそれぞれの表現の成り立ちを推察する。
【前期】 14～17回目	演劇の起源、古代ギリシア、宗教との関わり、シェイクスピアなどの劇作家の登場、貴族、大衆文化による発展など西洋演劇史と日本の古代から中世にかけての伎楽、猿楽、田楽、能、狂言など、また近世の歌舞伎、人形浄瑠璃などの在り方を学ぶ。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	近世の歌舞伎役者から戦前戦後のテレビ、漫才、落語、コント、ドラマ、時代劇、マジック、ラジオなど大衆文化の担い手となったコンテンツが何故、人気を博したかの推察を行う。また、芸能事務所、エージェンなどの担った役割も解説する。
【後期】 21～24回目	デジタル技術やインターネットの普及によって、パフォーマンス側が自らのイベント情報を発信し、直接オーディエンスやユーザーと繋がり、ダイレクトにビジネスを行なうことが可能な時代において自らが自分という商品のブランドを高め、且つビジネスの知識、業界の仕組みを知らないとセルフプロデュースを試みられないことから現代におけるプロデュース論を学習する。
【後期】 25～27回目	コンサートの企画・立案から運営まで、またステージにおける音響、照明、テック、ローディー、舞台監督など技術系スタッフの動きや役割などの全般理解を行い、多角的な視点でイベント運営を見つめられるようにする。
【後期】 28～30回目	民族交流や伝播による世界各地の思想・宗教・文学・歴史・民俗・美術・音楽などの発生を知ると同時に、新たな地域文化が生まれる際のメカニズムなどを推察していく。
【後期】 31～34回目	ビジネススキルとして対人関係、主にコミュニケーション、会話、交渉、プレゼンスキル、コーチングなど、また自己管理としてスケジュール、目標、タスク管理術を理解させ、一社会人として業界で活躍できるようにこれらの有効性を学習させる。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	インプロヴィゼーション理論Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
世界の様々な曲を演奏し、即興演奏に挑戦する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト別に取り上げるスケールやグルーヴ、リズムなどをベースに様々な理論やエクササイズ、パターンを通してフレーズやアイデアを発想できるようにする。 ・どのジャンルの曲でも現場で対応できるようにする。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲①、②スラップベース32分音符を感じて弾く。はねたパターン、16分音符を意識して弾く。
【前期】 4～7回目	課題曲③、④はねたパターン、16分音符をからだに入れて弾く。ユニゾン、はねたパターンを試す。
【前期】 8～10回目	課題曲⑤、⑥6連符、キメ、ナチュラルサイクルをからだに入れて弾く。コード弾き、ダブルストップに挑戦。
【前期】 11～13回目	課題曲⑦シンプルなコードなのでグルーヴ重視できれいなラインを弾こう。Live Week テストレビュー 前期テスト
【前期】 14～17回目	前期まとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / 即興力 / サウンドバランス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲⑧、課題曲⑨ベースメロディーとガラッと違うアプローチをする。ドラムとの位置関係、ジャストを狙って弾く。
【後期】 21～24回目	課題曲⑩、課題曲⑪マイナー、ナインスをうまく使ってアプローチをする。HIPHOPビートをからだに入れてキレのあるスラップを弾こう。
【後期】 25～27回目	課題曲⑫、課題曲⑬定番コード進行で様々なアプローチをする。ギター、ドラムとのユニゾン決めよう。。16分音符をからだに入れて弾こう。
【後期】 28～30回目	課題曲⑭ファンキーなビート、ゴーストノート、スラップを巧みに弾こう。
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / 即興力 / サウンドバランス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 即興力 / サウンドバランス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	世界の様々なリズム、グルーヴに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになりましょう。 バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけるよう心がけましょう。□
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループの歴史と体系Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・JUON, MAGO, TOC等様々なアーティスト音源のレコーディング参加。 ・Othello, The Baker Brothers, US3等様々なアーティストとの共演。 				
授業概要	様々なジャンルの楽曲に触れる事でそのエッセンスを取り入れ、ベーシストとしてのポテンシャルを高めます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな現場でも対応できる柔軟な力を身につける。 ・名曲に触れ、実際に演奏することで音楽の幅を広げる。 ・楽曲のグルーブを感じそれに応じたリズム、音価などを操り表現する。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲:1】楽曲の勢い活かした演奏に心がける。Bメロのフレーズで躓かないようにする。【課題曲:2】ミュートを掛けつつアタックをしっかりと出す。一定のノリを保つ事。【課題曲:3】シャッフルのハネ具合を分析し、適したピッキングを選択する。
【前期】 4～7回目	【課題曲:3】頭抜きのフレーズ。ドッシリ且つメロウなラインを弾く。【課題曲:4】ナチュラルサイクルを意識し、ロストする事を防ぐ。【課題曲:5】リズムチェンジになれる。ユニゾンフレーズに注意する。
【前期】 8～10回目	【課題曲:6】最後の8小節に気を付ける。ジャコ特有のサウンド、フレージングの研究。【課題曲:7】ゴーストノートを駆使したフレージングに心がける。
【前期】 11～13回目	【課題:8】セクション毎の変化を意識した演奏をする。
【前期】 14～17回目	【課題:8】【課題曲:9】変拍子になれる。ラインを歌う。【課題曲:10】ユニゾンフレーズに気をつけ、躍らせるベースを弾く。 ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲:11】【課題曲:12】リズムの変化になれる。セクション毎に緩急をつける。【課題曲:13】2,4拍を意識し、リズムカル且つ優しく伸びのある演奏に心がける。
【後期】 21～24回目	【課題曲:14】【課題曲:15】緩やかなダイナミクスをつける。
【後期】 25～27回目	【課題曲:16】どっしりとしたシャッフルを心がける。キメを大切に。
【後期】 28～30回目	【課題曲:17】楽曲の雰囲気ノリを再現する。メロディを歌いながら弾く。【課題曲:18】ユニゾンフレーズは歌えるまで体に叩き込む。
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 分析力 / 再現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	勉強になる曲ばかりなので何度も聴いて、弾いて自分のものにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	フレットボード&スケールⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	2018年よりサポートベーシストとしての活動を開始。 Mega Shinnosuke, LinQ, こはならむ, GAKU-MCなどのライブサポートやRECサポートを担当。 2023年にはマルチアライメン公式PRソングのベースを担当。				
授業概要	フレットボード上の音階を全て可視化するために、スケールやインターバルなどの指板上の情報、さらに熟練度を高めるためのエクササイズを学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身がどのポジション、どのフレットを押さえればその音になるか視覚的に理解する。 ・自分の内側に鳴っているサウンドを自由自在に表現できるようにする。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Unit6 ダイアトニックなコード進行でアルペジオ演奏、2つのキーを含むコード進行を演奏。
【前期】 4～7回目	Unit7 ノンダイアトニックを含むコード進行、モーダル・インターチェンジ、セカンダリードミナントを演奏。
【前期】 8～10回目	Unit8 スケールとコード、ドミナント7th、コードに対するその他のスケールを演奏。
【前期】 11～13回目	Unit9 フレットボードのアクセス、2オクターブのエクササイズ、2オクターブのスケールを演奏。
【前期】 14～17回目	フレットボードテキスト復習。 ■前期試験:課題曲の演奏により「スケールの理解 / コード進行の理解 / リズム」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	Marcus Millerから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Lee Ritenour ・Dave Grusin ・David Sanbornを演奏。
【後期】 21～24回目	Will Leeから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Smooies ・Diane Sehuurを演奏。
【後期】 25～27回目	Nathan Eastから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Fourplay ・Eric Claptonを演奏。
【後期】 28～30回目	Anthony Jacksonから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Lee Ritenour ・Chaka Khan ・Michel Petruccianiを演奏。
【後期】 31～34回目	Jaco Pastriusから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Jani Mitichellを演奏。 ■後期試験:課題曲の演奏により「スケールの理解 / コード進行の理解 / リズム」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「スケールの理解 / コード進行の理解 / リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	フレットボードスケールというと、難しいイメージを持つかもしれませんが、冷静に学ぶと理解できると思います。自分の内側に鳴っているサウンドを自由自在に表現できるベーシストになりましょう。
備考	使用教科書「フレットボードテキスト」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレイングテクニックⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
演奏に際してかならず必要になる「○○らしさ」様々なジャンルの中でのベースのアプローチを学ぶ。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に様々な楽曲を研究してグルーブ感、音使いの傾向などを学ぶ。 ・頻出のジャンルに関して自分なりのベースラインを作れるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	耳コピーで音を探す。聞き取れない音は理論その他を使って想像する。
【前期】 4～7回目	Primary Grooveとしてのロックスタイル、ファンク、レゲエ ラテン、ボッサ、サンバ
【前期】 8～10回目	ジャズのバックイング ツービート フォービート
【前期】 11～13回目	ジャズのセッションにおける約束ごと
【前期】 14～17回目	ベースソロ ツーフィンガーとスラップ ■前期試験:課題曲の演奏により「演奏力/理解力/オリジナリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	Primary Groove ゴスペル ラテンジャズ
【後期】 21～24回目	ジャズスタンダードのバックイング
【後期】 25～27回目	ジャズスタンダードのコード進行を使っての解析及びアドリブソロ
【後期】 28～30回目	和音を多用したバックイング ボーカルサポートに関する考え方
【後期】 31～34回目	セッションに頻出の楽曲 良くあるアレンジとアプローチ ■後期試験:課題曲の演奏により「演奏力/理解力/オリジナリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力/理解力/オリジナリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の力を信じて思い切りチャレンジしてください。失敗を恐れずに。楽器を弾いた時間だけ音楽も応えてくれるはずです。
備考	使用教科書「ブレイングテクニック2」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アドバンスドベースⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	2018年よりサポートベーシストとしての活動を開始。 Mega Shinnosuke, LinQ, こはならむ, GAKU-MCなどのライブサポートやRECサポートを担当。 2023年にはマルチアレンジャー公式PRソングのベースを担当。				
授業概要	プロフェッショナルを目指すうえで必須となる難易度の高いテクニックや奏法を段階的に押し上げ、高度なフレーズに対応できる能力を培います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽をするうえで欠かせないワンランク上のテクニックを身につける。 ・世界の様々な楽曲を演奏できるようにする。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Pops Bass ・シンプルなコード進行で様々なアプローチを試みる
【前期】 4～7回目	Funk Bass ・ラリーグラハム風スラップスタイル、ロココプレスティア風バームミュートに挑戦
【前期】 8～10回目	R&B Bass ・バーダンホワイト風フィンガースタイル、ダイナミクスのつけ方に挑戦
【前期】 11～13回目	Hard Rock Bass ・ビリーシーン風3フィンガー、マイナーペンタトニックを使ったユニゾンフレーズに挑戦
【前期】 14～17回目	Blues Bass ・ブルース進行でのラインの作り方、タメを意識して弾いてみる ■前期試験:課題曲の演奏により「テクニック / リズム / サウンド」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	Slap Bass ・サムピングアップダウン、ロータリー奏法、ダブルブルに挑戦
【後期】 21～24回目	Jazz Bass ・4ビート中のゴーストノートの入れ方、ソロに挑戦
【後期】 25～27回目	Latin Bass ・2. 2. 3. 2. に慣れてみよう。クラベの法則を学ぶ
【後期】 28～30回目	Marcus Bass ・マーカスマラーのフレーズの中で難易度の高い32分音符に挑戦
【後期】 31～34回目	Session Time ・講師と色々なキーでセッションの挑戦 ■後期試験:課題曲の演奏により「テクニック / リズム / サウンド」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「テクニック / リズム / サウンド」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ワンランク上のテクニックを身につけることでぐっと表現の幅が広がります。自由に音楽を楽しめるように挑戦しよう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループアンサンブル実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・JUON, MAGO, TOC等様々なアーティスト音源のレコーディング参加。 ・Othello, The Baker Brothers, US3等様々なアーティストとの共演。 				
授業概要	<p>様々なジャンルの楽曲に触れる事でそのエッセンスを取り入れ、ベーシストとしてのポテンシャルを高めます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな現場でも対応できる柔軟な力を身につける。 ・名曲に触れ、実際に演奏することで音楽の幅を広げる。 ・楽曲のグルーブを感じそれに応じたリズム、音価などを操り表現する。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲:1】楽曲の勢い活かした演奏に心がける。Bメロのフレーズで躓かないようにする。【課題曲:2】ミュートを掛けつつアタックをしっかりと出す。一定のノリを保つ事。【課題曲:3】シャッフルのハネ具合を分析し、適したピッキングを選択する。
【前期】 4～7回目	【課題曲:3】頭抜きのフレーズ。ドッシリ且つメロウなラインを弾く。【課題曲:4】ナチュラルサイクルを意識し、ロストする事を防ぐ。【課題曲:5】リズムチェンジになれる。ユニゾンフレーズに注意する。
【前期】 8～10回目	【課題曲:6】最後の8小節に気を付ける。ジャコ特有のサウンド、フレージングの研究。【課題曲:7】ゴーストノートを駆使したフレージングに心がける。
【前期】 11～13回目	【課題:8】セクション毎の変化を意識した演奏をする。
【前期】 14～17回目	【課題曲:9】変拍子になれる。ラインを歌う。【課題曲:10】ユニゾンフレーズに気をつけ、躍らせるベースを弾く。 ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲:11】【課題曲:12】リズムの変化になれる。セクション毎に緩急をつける。【課題曲:13】2,4拍を意識し、リズムカル且つ優しく伸びのある演奏に心がける。
【後期】 21～24回目	【課題曲:14】【課題曲:15】緩やかなダイナミクスをつける。
【後期】 25～27回目	【課題曲:16】どっしりとしたシャッフルを心がける。キメを大切に。
【後期】 28～30回目	【課題曲:17】楽曲の雰囲気ノリを再現する。メロディを歌いながら弾く。【課題曲:18】ユニゾンフレーズは歌えるまで体に叩き込む。
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 分析力 / 再現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	将来演奏することの多く勉強になる曲ばかりなので何度も聴いて、弾いて自分のものにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
アンサンブルの中でのベースの役割。何が必要なかを体感する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちでは選ばない様な課題曲を与えてどう演奏すれば良いかを考え表現することができる。 自分なりのアプローチで楽曲にどう参加するのかを考え表現することができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲1 ギターとのユニゾンリフを弾きながら自己主張も。ヘヴィなグルーヴを表現しながらタイトなベースラインを弾こう。
【前期】 4～7回目	課題曲2 ジャズ的アプローチ。エレベでどうアプローチすれば良いか、またジャズ独特のノリをどう表現するか。
【前期】 8～10回目	課題曲3 エイトビート系のバラード。一曲を通してのメリハリの作り方が最重要。
【前期】 11～13回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【前期】 14～17回目	前期課題曲の実演及び講師による評価 ■前期試験: 課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲4 ファンキーなグルーヴを前面に打ち出した曲、スラップとベースソロに挑戦
【後期】 21～24回目	課題曲5 ラテン要素をうまく取り込んで尚且つ独自のアプローチを目指そう。
【後期】 25～27回目	課題曲6 ゴスペルチックな雰囲気満載。ガンガンに盛り上げながらも冷静に周りの音を聞こう。
【後期】 28～30回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【後期】 31～34回目	後期課題曲の実演及び講師による評価 ■後期試験: 課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ベースが楽曲の中でどんな役割を持つのか、どう弾いたらどう変わるのかを考えながら弾いて学んでください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
アンサンブルの中でのベースの役割。何が必要なかを体感する。 ※アンサンブル基礎Ⅱの二コマ目として実施					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちでは選ばない様な課題曲を与えてどう演奏すれば良いかを考え表現することができる。 自分なりのアプローチで楽曲にどう参加するのかを考え表現することができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲1 ギターとのユニゾンリフを弾きながら自己主張も。ヘヴィなグルーヴを表現しながらタイトなベースラインを弾こう。
【前期】 4～7回目	課題曲2 ジャズ的アプローチ。エレベでどうアプローチすれば良いか、またジャズ独特のノリをどう表現するか。
【前期】 8～10回目	課題曲3 エイトビート系のバラード。一曲を通してのメリハリの作り方が最重要。
【前期】 11～13回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【前期】 14～17回目	前期課題曲の実演及び講師による評価 ■前期試験: 課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲4 ファンキーなグルーヴを前面に打ち出した曲、スラップとベースソロに挑戦
【後期】 21～24回目	課題曲5 ラテン要素をうまく取り込んで尚且つ独自のアプローチを目指そう。
【後期】 25～27回目	課題曲6 ゴスペルチックな雰囲気満載。ガンガンに盛り上げながらも冷静に周りの音を聞こう。
【後期】 28～30回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【後期】 31～34回目	後期課題曲の実演及び講師による評価 ■後期試験: 課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ベースが楽曲の中でどんな役割を持つのか、どう弾いたらどう変わるのかを考えながら弾いて学んでください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルワークⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	自身のオリジナルバンド『Raspberry Dream』(ラズベリー・ドリーム)では作詞作曲も担当し、4枚のアルバムを全国リリース。鹿児島驚がるキャンペーン、トヨタカローラ福岡等のCM楽曲制作も行う。				
授業概要					
基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いにコネクトしながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。 ・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。 ・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。 ・チームワーク、協調性を養います。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 4～7回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 8～10回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 11～13回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 14～17回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 21～24回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 25～27回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 28～30回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 31～34回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作り上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを経験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオワークⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自身のオリジナルバンド『Raspberry Dream』(ラズベリー・ドリーム)では作詞作曲も担当し、4枚のアルバムを全国リリース。鹿児島繋がるキャンペーン、トヨタカローラ福岡等のCM楽曲制作も行う。				
授業概要					
オリジナルワークⅡ同様、基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いに接続しながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルワークⅡでの内容を更に応用し制作していきます。 ・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。 ・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。 ・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。 ・チームワーク、協調性を養います。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 4～7回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 8～10回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 11～13回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 14～17回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 21～24回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 25～27回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 28～30回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 31～34回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作るプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを体験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	

音楽アーティスト科 ベースコース 受講科目一覧 2年次

ベース&クリエイター専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
演習	共同演習Ⅱ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅱ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅱ	68	2	4
実習	DAW・DTM基礎Ⅱ	68	2	2
実習	作品制作基礎Ⅱ	68	2	2
実習	作品制作応用Ⅱ	68	2	2
合計		888	26	38

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴					
授業概要	著作物の定義や著作権の権利及び著作隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。				
到達目標	音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権の権利の内容を理解する 著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作隣接権の内容について理解する ① 著作隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～17回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 18～20回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ【作文作成&提出】
【後期】 21～24回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リカーブラインについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 25～27回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 28～30回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 31～34回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。 JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。 仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	分野別ゼミⅡ		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要	主にパフォーマンスアートの歴史(音楽史、演劇史、芸能史、身体表現の歴史)を通してこれらの体系を理解することでアーティストとしての自らの在り方を探ると同時に、哲学などを学びながらそれらのエッセンスを加味することによりそれぞれの美学に立脚した活動を促す。				
到達目標	オリジナルパフォーマンス、オリジナルアンサンブル、セッションワークなどの様々なパフォーマンスアートの理論を通してそれらコンテンツの基本構造を理解し、実際の表現学習の類型を体系的に捉えることにより知識量を飛躍的に向上させます。またプロフェッショナルへの入り口として技や演出力のレベルを上げ、実際のショービジネスの世界で通用しうかのシビアな目線によって、より高度な表現方法への造詣を深め、且つ表現者としてそれらを体得していく。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	エンタテインメント作品とは歴史や人間性など人生哲学がダイレクトに投影されるという視点から様々な先人の類型を紐解きながらアーティストとしての生き様を討議などを交えて考え出していく。
【前期】 4～7回目	音楽の起源から中世・ルネッサンス、バロック、典派、ロマン、近代・現代の音楽と作曲家、また現代ポピュラーミュージックへ多大な影響を与えたアメリカルーツミュージックの体系・系譜を学びそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 8～10回目	日本の音楽史の中でポイントとなる雅楽、声明、琵琶楽、能、文楽、歌舞伎、地歌、箏曲、尺八などの演奏、発声、ステージシステムなどを体系的に理解しそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 11～13回目	身体表現の歴史では舞踏やダンスは様々なスタイルの累積により進化し、過去から現代へと融合し、新たなムーブメントが生み出される。そのルーツやスタイルの系譜を見ながらそれぞれの表現の成り立ちを推察する。
【前期】 14～17回目	演劇の起源、古代ギリシア、宗教との関わり、シェイクスピアなどの劇作家の登場、貴族、大衆文化による発展など西洋演劇史と日本の古代から中世にかけての伎楽、猿楽、田楽、能、狂言など、また近世の歌舞伎、人形浄瑠璃などの在り方を学ぶ。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	近世の歌舞伎役者から戦前戦後のテレビ、漫才、落語、コント、ドラマ、時代劇、マジック、ラジオなど大衆文化の担い手となったコンテンツが何故、人気を博したかの推察を行う。また、芸能事務所、エージェントなどの担った役割も解説する。
【後期】 21～24回目	デジタル技術やインターネットの普及によって、パフォーマンス側が自らのイベント情報を発信し、直接オーディエンスやユーザーと繋がり、ダイレクトにビジネスを行なうことが可能な時代において自らが自分という商品のブランドを高め、且つビジネスの知識、業界の仕組みを知らないとセルフプロデュースを試みられないことから現代におけるプロデュース論を学習する。
【後期】 25～27回目	コンサートの企画・立案から運営まで、またステージにおける音響、照明、テック、ローディー、舞台監督など技術系スタッフの動きや役割などの全般理解を行い、多角的な視点でイベント運営を見つめられるようにする。
【後期】 28～30回目	民族交流や伝播による世界各地の思想・宗教・文学・歴史・民俗・美術・音楽などの発生を知ると同時に、新たな地域文化が生まれる際のメカニズムなどを推察していく。
【後期】 31～34回目	ビジネススキルとして対人関係、主にコミュニケーション、会話、交渉、プレゼンスキル、コーチングなど、また自己管理としてスケジュール、目標、タスク管理術を理解させ、一社会人として業界で活躍できるようにこれらの有効性を学習させる。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	インプロヴィゼーション理論Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
世界の様々な曲を演奏し、即興演奏に挑戦する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト別に取り上げるスケールやグルーヴ、リズムなどをベースに様々な理論やエクササイズ、パターンを通してフレーズやアイデアを発想できるようにする。 ・どのジャンルの曲でも現場で対応できるようにする。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲①、②スラップベース32分音符を感じて弾く。はねたパターン、16分音符を意識して弾く。
【前期】 4～7回目	課題曲③、④はねたパターン、16分音符をからだに入れて弾く。ユニゾン、はねたパターンを試す。
【前期】 8～10回目	課題曲⑤、⑥6連符、キメ、ナチュラルサイクルをからだに入れて弾く。コード弾き、ダブルストップに挑戦。
【前期】 11～13回目	課題曲⑦シンプルなコードなのでグルーヴ重視できれいなラインを弾こう。Live Week テストレビュー 前期テスト
【前期】 14～17回目	前期まとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / 即興力 / サウンドバランス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲⑧、課題曲⑨ベースメロディーとガラッと違うアプローチをする。ドラムとの位置関係、ジャストを狙って弾く。
【後期】 21～24回目	課題曲⑩、課題曲⑪マイナー、ナインスをうまく使ってアプローチをする。HIPHOPビートをからだに入れてキレのあるスラップを弾こう。
【後期】 25～27回目	課題曲⑫、課題曲⑬定番コード進行で様々なアプローチをする。ギター、ドラムとのユニゾン決めよう。。16分音符をからだに入れて弾こう。
【後期】 28～30回目	課題曲⑭ファンキーなビート、ゴーストノート、スラップを巧みに弾こう。
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / 即興力 / サウンドバランス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 即興力 / サウンドバランス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	世界の様々なリズム、グルーヴに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになりましょう。 バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけるよう心がけましょう。□
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループの歴史と体系Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・JUON, MAGO, TOC等様々なアーティスト音源のレコーディング参加。 ・Othello, The Baker Brothers, US3等様々なアーティストとの共演。 				
授業概要	様々なジャンルの楽曲に触れる事でそのエッセンスを取り入れ、ベーシストとしてのポテンシャルを高めます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな現場でも対応できる柔軟な力を身につける。 ・名曲に触れ、実際に演奏することで音楽の幅を広げる。 ・楽曲のグループを感じそれに応じたリズム、音価などを操り表現する。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲:1】楽曲の勢い活かした演奏に心がける。Bメロのフレーズで躓かないようにする。【課題曲:2】ミュートを掛けつつアタックをしっかりと出す。一定のノリを保つ事。【課題曲:3】シャッフルのハネ具合を分析し、適したピッキングを選択する。
【前期】 4～7回目	【課題曲:3】頭抜きのフレーズ。ドッシリ且つメロウなラインを弾く。【課題曲:4】ナチュラルサイクルを意識し、ロストする事を防ぐ。【課題曲:5】リズムチェンジになれる。ユニゾンフレーズに注意する。
【前期】 8～10回目	【課題曲:6】最後の8小節に気を付ける。ジャコ特有のサウンド、フレージングの研究。【課題曲:7】ゴーストノートを駆使したフレージングに心がける。
【前期】 11～13回目	【課題:8】セクション毎の変化を意識した演奏をする。
【前期】 14～17回目	【課題:8】【課題曲:9】変拍子になれる。ラインを歌う。【課題曲:10】ユニゾンフレーズに気をつけ、躍らせるベースを弾く。 ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲:11】【課題曲:12】リズムの変化になれる。セクション毎に緩急をつける。【課題曲:13】2,4拍を意識し、リズムカル且つ優しく伸びのある演奏に心がける。
【後期】 21～24回目	【課題曲:14】【課題曲:15】緩やかなダイナミクスをつける。
【後期】 25～27回目	【課題曲:16】どっしりとしたシャッフルを心がける。キメを大切に。
【後期】 28～30回目	【課題曲:17】楽曲の雰囲気ノリを再現する。メロディを歌いながら弾く。【課題曲:18】ユニゾンフレーズは歌えるまで体に叩き込む。
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 分析力 / 再現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	勉強になる曲ばかりなので何度も聴いて、弾いて自分のものにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	フレットボード&スケールⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	2018年よりサポートベーシストとしての活動を開始。 Mega Shinnosuke, LinQ, こはならむ, GAKU-MCなどのライブサポートやRECサポートを担当。 2023年にはマルチアレンジャー公式PRソングのベースを担当。				
授業概要	フレットボード上の音階を全て可視化するために、スケールやインターバルなどの指板上の情報、さらに熟練度を高めるためのエクササイズを学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身がどのポジション、どのフレットを押さえればその音になるか視覚的に理解する。 ・自分の内側に鳴っているサウンドを自由自在に表現できるようにする。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Unit6 ダイアトニックなコード進行でアルペジオ演奏、2つのキーを含むコード進行を演奏。
【前期】 4～7回目	Unit7 ノンダイアトニックを含むコード進行、モーダル・インターチェンジ、セカンダリードミナントを演奏。
【前期】 8～10回目	Unit8 スケールとコード、ドミナント7th、コードに対するその他のスケールを演奏。
【前期】 11～13回目	Unit9 フレットボードのアクセス、2オクターブのエクササイズ、2オクターブのスケールを演奏。
【前期】 14～17回目	フレットボードテキスト復習。 ■前期試験:課題曲の演奏により「スケールの理解 / コード進行の理解 / リズム」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	Marcus Millerから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Lee Ritenour ・Dave Grusin ・David Sanbornを演奏。
【後期】 21～24回目	Will Leeから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Smooies ・Diane Sehuurを演奏。
【後期】 25～27回目	Nathan Eastから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Fourplay ・Eric Claptonを演奏。
【後期】 28～30回目	Anthony Jacksonから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Lee Ritenour ・Chaka Khan ・Michel Petruccianiを演奏。
【後期】 31～34回目	Jaco Pastriusから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Jani Mitichellを演奏。 ■後期試験:課題曲の演奏により「スケールの理解 / コード進行の理解 / リズム」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「スケールの理解 / コード進行の理解 / リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	フレットボードスケールというと、難しいイメージを持つかもしれませんが、冷静に学ぶと理解できると思います。自分の内側に鳴っているサウンドを自由自在に表現できるベーシストになりましょう。
備考	使用教科書「フレットボードテキスト」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレイングテクニックⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
演奏に際してかならず必要になる「○○らしさ」様々なジャンルの中でのベースのアプローチを学ぶ。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に様々な楽曲を研究してグルーブ感、音使いの傾向などを学ぶ。 ・頻出のジャンルに関して自分なりのベースラインを作れるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	耳コピーで音を探す。聞き取れない音は理論その他を使って想像する。
【前期】 4～7回目	Primary Grooveとしてのロックスタイル、ファンク、レゲエ ラテン、ボッサ、サンバ
【前期】 8～10回目	ジャズのバックイング ツービート フォービート
【前期】 11～13回目	ジャズのセッションにおける約束ごと
【前期】 14～17回目	ベースソロ ツーフィンガーとスラップ ■前期試験:課題曲の演奏により「演奏力/理解力/オリジナリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	Primary Groove ゴスペル ラテンジャズ
【後期】 21～24回目	ジャズスタンダードのバックイング
【後期】 25～27回目	ジャズスタンダードのコード進行を使つての解析及びアドリブソロ
【後期】 28～30回目	和音を多用したバックイング ボーカルサポートに関する考え方
【後期】 31～34回目	セッションに頻出の楽曲 良くあるアレンジとアプローチ ■後期試験:課題曲の演奏により「演奏力/理解力/オリジナリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力/理解力/オリジナリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の力を信じて思い切りチャレンジしてください。失敗を恐れずに。楽器を弾いた時間だけ音楽も応えてくれるはずです。
備考	使用教科書「ブレイングテクニック2」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループアンサンブル実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・JUON, MAGO, TOC等様々なアーティスト音源のレコーディング参加。 ・Othello, The Baker Brothers, US3等様々なアーティストとの共演。 				
授業概要	<p>様々なジャンルの楽曲に触れる事でそのエッセンスを取り入れ、ベーシストとしてのポテンシャルを高めます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな現場でも対応できる柔軟な力を身につける。 ・名曲に触れ、実際に演奏することで音楽の幅を広げる。 ・楽曲のグルーブを感じそれに応じたリズム、音価などを操り表現する。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲:1】楽曲の勢い活かした演奏に心がける。Bメロのフレーズで躓かないようにする。【課題曲:2】ミュートを掛けつつアタックをしっかりと出す。一定のノリを保つ事。【課題曲:3】シャッフルのハネ具合を分析し、適したピッキングを選択する。
【前期】 4～7回目	【課題曲:3】頭抜きのフレーズ。ドッシリ且つメロウなラインを弾く。【課題曲:4】ナチュラルサイクルを意識し、ロストする事を防ぐ。【課題曲:5】リズムチェンジになれる。ユニゾンフレーズに注意する。
【前期】 8～10回目	【課題曲:6】最後の8小節に気を付ける。ジャコ特有のサウンド、フレージングの研究。【課題曲:7】ゴーストノートを駆使したフレージングに心がける。
【前期】 11～13回目	【課題:8】セクション毎の変化を意識した演奏をする。
【前期】 14～17回目	【課題曲:9】変拍子になれる。ラインを歌う。【課題曲:10】ユニゾンフレーズに気をつけ、躍らせるベースを弾く。 ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲:11】【課題曲:12】リズムの変化になれる。セクション毎に緩急をつける。【課題曲:13】2,4拍を意識し、リズミカル且つ優しく伸びのある演奏に心がける。
【後期】 21～24回目	【課題曲:14】【課題曲:15】緩やかなダイナミクスをつける。
【後期】 25～27回目	【課題曲:16】どっしりとしたシャッフルを心がける。キメを大切に。
【後期】 28～30回目	【課題曲:17】楽曲の雰囲気ノリを再現する。メロディを歌いながら弾く。【課題曲:18】ユニゾンフレーズは歌えるまで体に叩き込む。
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 分析力 / 再現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	将来演奏することの多く勉強になる曲ばかりなので何度も聴いて、弾いて自分のものにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
アンサンブルの中でのベースの役割。何が必要なかを体感する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちでは選ばない様な課題曲を与えてどう演奏すれば良いかを考え表現することができる。 自分なりのアプローチで楽曲にどう参加するのかを考え表現することができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲1 ギターとのユニゾンリフを弾きながら自己主張も。ヘヴィなグルーヴを表現しながらタイトなベースラインを弾こう。
【前期】 4～7回目	課題曲2 ジャズ的アプローチ。エレベでどうアプローチすれば良いか、またジャズ独特のノリをどう表現するか。
【前期】 8～10回目	課題曲3 エイトビート系のバラード。一曲を通してのメリハリの作り方が最重要。
【前期】 11～13回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【前期】 14～17回目	前期課題曲の実演及び講師による評価 ■前期試験: 課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲4 ファンキーなグルーヴを前面に打ち出した曲、スラップとベースソロに挑戦
【後期】 21～24回目	課題曲5 ラテン要素をうまく取り込んで尚且つ独自のアプローチを目指そう。
【後期】 25～27回目	課題曲6 ゴスペルチックな雰囲気満載。ガンガンに盛り上げながらも冷静に周りの音を聞こう。
【後期】 28～30回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【後期】 31～34回目	後期課題曲の実演及び講師による評価 ■後期試験: 課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ベースが楽曲の中でどんな役割を持つのか、どう弾いたらどう変わるのかを考えながら弾いて学んでください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
アンサンブルの中でのベースの役割。何が必要なかを体感する。 ※アンサンブル基礎Ⅱの二コマ目として実施					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちでは選ばない様な課題曲を与えてどう演奏すれば良いかを考え表現することができる。 自分なりのアプローチで楽曲にどう参加するのかを考え表現することができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲1 ギターとのユニゾンリフを弾きながら自己主張も。ヘヴィなグルーヴを表現しながらタイトなベースラインを弾こう。
【前期】 4～7回目	課題曲2 ジャズ的アプローチ。エレベでどうアプローチすれば良いか、またジャズ独特のノリをどう表現するか。
【前期】 8～10回目	課題曲3 エイトビート系のバラード。一曲を通してのメリハリの作り方が最重要。
【前期】 11～13回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【前期】 14～17回目	前期課題曲の実演及び講師による評価 ■前期試験:課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲4 ファンキーなグルーヴを前面に打ち出した曲、スラップとベースソロに挑戦
【後期】 21～24回目	課題曲5 ラテン要素をうまく取り込んで尚且つ独自のアプローチを目指そう。
【後期】 25～27回目	課題曲6 ゴスペルチックな雰囲気満載。ガンガンに盛り上げながらも冷静に周りの音を聞こう。
【後期】 28～30回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【後期】 31～34回目	後期課題曲の実演及び講師による評価 ■後期試験:課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ベースが楽曲の中でどんな役割を持つのか、どう弾いたらどう変わるのかを考えながら弾いて学んでください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW II		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW・DTM基礎 II	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	メタルバンド「ANOTHER STREAM」(アナザーストリーム)にてインディーズデビュー。国内外から様々な評価を得つつ2012年に脱退。 2013年よりレコーディングエンジニア・アレンジャーとしてのキャリアを開始し、メジャーアーティストを始め様々なアーティストのレコーディング、編曲などに参加。				
授業概要					
<p>作詞・作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文・ポエムにならないような歌詞作り 生徒自身で作成したオリジナル楽曲に対して編曲をする。編曲における各種楽器の理解、logicX及びPC(Mac)操作</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が作曲する作品の多くは偏ったジャンル、かつ狭い範囲で制作することが殆どである為、生徒が持ち合わせていない作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらうこと。 生徒本人が持つ個性を自覚し、その個性を武器として、卒業後もその個性を追求し、アーティストとして作品作りが出来るようにする。 オリジナル曲をボイスメモ引き語りで完結させず、logicX上で管理し、自身のプロモーション活動及びアレンジャー委託用のヘッドアレンジを出来るようにする。 logicXの操作習得、自身オリジナル曲のファイル管理、各楽器の役割アプローチを理解する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ミディアムテンポで楽曲作成：イーブンやシャッフルの意識を再確認してもらう。作詞にて、景色と気持ちのバランス、慣用句の使いかた、固有名詞を入れるポイント
【前期】 4～7回目	アップテンポで楽曲制作：ハイテンポにおけるコードの適切な配置、ブレイクやキメなどのリズムの仕掛け作り。歌詞、ワードに対するポジティブとネガティブの切り分け、スピード感のある言葉とは。
【前期】 8～10回目	スローテンポ(バラード)で楽曲作成：バラードにおけるストリングスの使い方。1/16・1/32のクオンタイズの切り替え。6/8拍子で楽曲作成：スロー3連。logicXにて、テンポチェンジ、拍子チェンジのやり方
【前期】 11～13回目	マイナーkeyで楽曲制作：メジャースケール、マイナースケールのおさらい。ハーモニックマイナー、メロディックマイナー、マイナーペンタトニック。II m→Vの実践的な使い方。
【前期】 14～17回目	シャッフルビートで楽曲制作：8ビートシャッフル16ビートシャッフルの実践的な違い。I、△IV△7、VI mのトニックに関する解説と実践方法。「ラブソングのどこを切り取るのか？」について考えてみる ■前期試験：楽曲の制作により「作曲クオリティ/編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ロックンロールで楽曲制作：ロックンロールの定義についての研究。ロックとロックンロールの違いについて、ギターとピアノのロックンロールアプローチの解説。歌詞：ライミングについて。母音を合わせるタイミングについて
【後期】 21～24回目	R&Bで楽曲制作：昨今のリズムアンドブルースについて、踊れるビートとはなにか？ベースとキックのシンクロについて再認識。音価、ノートOFFのコントロール。
【後期】 25～27回目	ボサノヴァで楽曲制作：ボサノヴァの文化について、J-Popにおけるボサノヴァの使われ方。ボサノヴァとサンバの違いについて理解する。モンツウノ奏法について。ウイスパーボイスなど、楽曲に合わせた発声を研究する。
【後期】 28～30回目	レゲエで楽曲制作：レゲエの歴史について。黒レゲエ、白レゲエの違い。裏拍、バックビートの使い方。ギターの音色について、クリーン、クランチ、オーバードライブ、ディストーション、ファズ。
【後期】 31～34回目	jazzで楽曲制作：ジャズの種類、ビックバンド、スタンダード、モダン、ビバップなど。スイングの概念について。モードスケール・オルタードスケールの実践的な使い方。セカンダリドミナントの実践的な使い方。 ■後期試験：楽曲の制作により「作曲クオリティ/編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「制作楽曲のクオリティ/制作意欲」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	とにかく作曲の数をこなすこと(アウトプット)も大切ですが、インプットも大切です。特にリファレンス曲がリファレンス曲たる所以を、しっかり分析することも行ってください。自身の楽曲を客観的に捉えられるようになること。主観も大切ですが、特に客観性の強化、世の中の感性と自身の感性との誤差を客観的に捉えられようになることが商業作家として重要な事項の一つになると思います。そのあたりを念頭にオリジナル曲作りに励んでください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルワークⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギターヴォーカル/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	自身のオリジナルバンド『Raspberry Dream』(ラズベリー・ドリーム)では作詞作曲も担当し、4枚のアルバムを全国リリース。鹿児島驚がるキャンペーン、トヨタカローラ福岡等のCM楽曲制作も行う。				
授業概要					
基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いにコネクトしながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。 ・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。 ・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。 ・チームワーク、協調性を養います。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 4～7回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 8～10回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 11～13回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 14～17回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 21～24回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 25～27回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 28～30回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 31～34回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作り上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを経験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオワークⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギターヴォーカル/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自身のオリジナルバンド『Raspberry Dream』(ラズベリー・ドリーム)では作詞作曲も担当し、4枚のアルバムを全国リリース。鹿児島繋がるキャンペーン、トヨタカローラ福岡等のCM楽曲制作も行う。				
授業概要					
オリジナルワークⅡ同様、基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いに接続しながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルワークⅡでの内容を更に応用し制作していきます。 ・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。 ・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。 ・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。 ・チームワーク、協調性を養います。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 4～7回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 8～10回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 11～13回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 14～17回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 21～24回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 25～27回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 28～30回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 31～34回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作り上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを体験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	